

令和4年度 「小・中学校ジョイントスクール推進事業」 中沢中学校区 実践計画書
事務局 中沢中学校 (教頭 堀 直樹)

1 主題(4年計画の4年次)

「自己肯定感を高めるための小中連携のあり方について」
～自分のよさに気づき、自信をもって活動できる児童・生徒の育成をめざして～

2 主題設定の理由

情報化、核家族化、少子高齢化等の社会変化にともない、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化し、様々な課題が生じている。特に、日本の子どもたちは「自分に自信がもてない」等、諸外国に比べて自己評価が低いということが指摘されている。中沢中学校区も同様で、教師から見れば意欲をもって学習や様々な活動に取り組んでいるにもかかわらず、「自分にはよいところがある」「自信をもって活動できる」という問いには評価が低い。子どもたちが自分のよさに気づき、自信をもち、新しいことや困難なことに挑戦しようとすることは、子どもたちが個人の役割や責任を自覚し、社会への参画意識を高め変化の激しい社会を生き抜く力を育む上で重要な課題であると考えます。

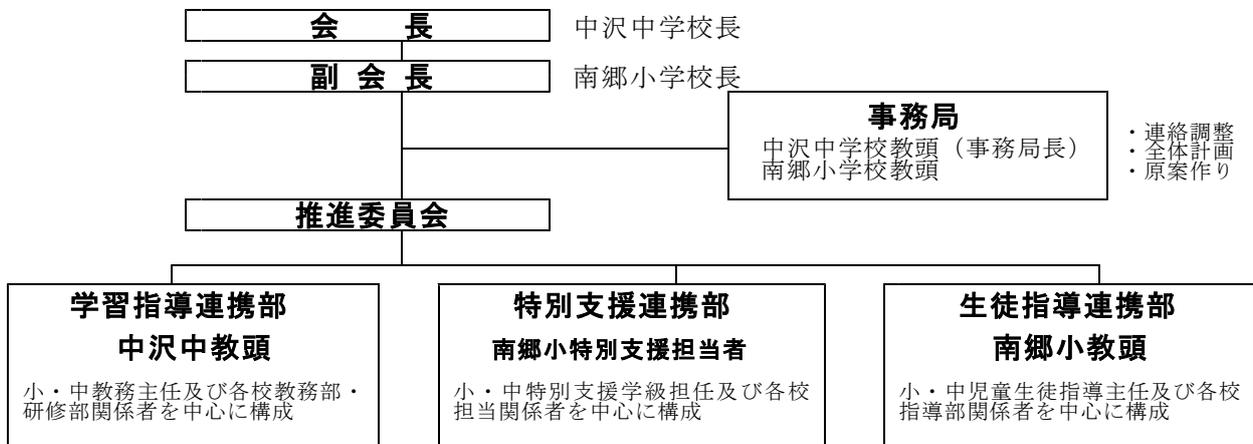
具体的な取り組みとして、

- ・ 自分の役割を理解し、存在感を感じることを「役立っていることを実感させる」「できる自分を意識させる」「周りの人からの肯定的な評価を受ける場を設定する」
- ・ 自分が周りの人に支えられた存在であることを理解し、感謝すること「多様なかかわりを経験させる」「周りの人に支えられていることを実感させる」
- ・ 自分の可能性を信じ、努力すること「できたことを実感させる」「否定的な面に対する気持ちを切り替えさせる」

の3観点に視点をあてる。この3観点を踏まえることで、教員が授業の仕方や教材の作成等、改善するポイントを明確にし、自己肯定感を高めるための視点に立った授業づくりによって、子どもたちの学習意欲が高まり、進んで学習する態度の育成、学力の向上を目指す。

昨年度の反省として、小中間で実践事項を統一できず、検証があいまいなものになってしまったことや、どの場面でどのように指導・支援していくのか課題設定をしていくことの必要性が出された。今年度は小中間で共通して取り組む実践事項と検証の視点を明確にし、自分のよさに気づき、自信をもって活動できる児童・生徒の育成を行っていききたい。

3 小・中学校ジョイントスクール推進事業を推進するための組織



4 中学校区の重点指導項目

中沢中学校区 重点指導項目

- 重点指導項目
 - 1 自分の役割を理解し、存在感を感じさせる。
「役立っていることを実感させる」「できる自分を認識させる」「周りの人からの肯定的な評価を受ける場」を設定する。
 - 2 自分が周りの人に支えられた存在であることを理解し、感謝する心を育てる。
「多様なかかわりを経験させる」「周りの人に支えられていることを実感させる」
 - 3 自分の可能性を信じ、努力することができる児童・生徒を育てる。
「できたことを実感させる」「否定的な面に対する気持ちを切り替えさせる」
- 習慣づけたい態度
 - 1 気持ちのよい返事やあいさつができる。
 - 2 互いをよく理解したり思いをしっかりと伝えるために、話をしっかりと聞き取ったり、正しい言葉づかいではっきり話すことができる。
 - 3 家庭学習習慣の確立・定着と充実を図ることができる。

5 具体的施策

- (1) 授業研究の視点
「役立っていることを実感させる場」、「できる自分を意識させる場」、「周りの人からの肯定的な評価を受ける場」を授業の中で設定し、「よさを認め互いに認め合う」関係づくりを目指す
- (2) 年間を通しての研究
 - ① 子どものよさを認める場面の設定
 - ・授業においてペア、グループでの指導など授業形態の工夫
 - ・諸行事への取組後の指導の在り方
 - ・日常場面での声かけの工夫
 - ・自他を肯定的に見るトレーニングの実施
 - ② 家庭学習の取組の評価
 - ・中学生の家庭学習ノートを小学校で掲示し、相互の学習意欲の向上を図る
 - ③ 小中共通実践
 - ・小中合同でのあいさつ運動の相互評価（メッセージ、お手紙等）
 - ・部活動見学会での共同活動における児童・生徒のよさの認め合い
 - ④ 授業の評価について
 - ・発問の仕方、評価の方法
 - ⑤ 児童、生徒の実態把握
 - ・自己肯定感に関する小中共通アンケートの実施と検証（経年変化の考察）
 - ・Q U、アセス等で生徒の実態をとらえる。